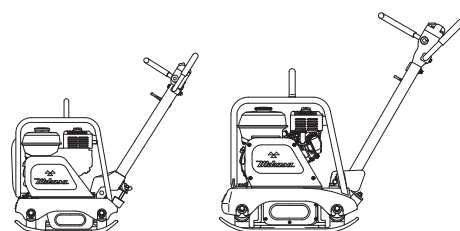


# Mikasa

油圧バイブロコンパクター

## MVH-R60H/R60HA MVH-100H



### 取扱説明書

ja

三笠製品をお買い上げいただきありがとうございます。  
ご使用前に本書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してご利用ください。



<http://www.mikasas.com>

401-03102



# 目次

1	はじめに	1
2	機能概要	1
3	警告サイン	2
4	安全のための注意事項	2
	4.1 一般的な注意事項	2
	4.2 給油中の注意事項	2
	4.3 使用場所、換気に関する注意事項	3
	4.4 作業前の注意事項	3
	4.5 作業上の注意事項	3
	4.6 リフティング時の注意事項	3
	4.7 運搬・保管に関する注意事項	3
	4.8 整備上の注意事項	4
	4.9 ラベル位置図	4
	4.10 ラベルの絵文字説明	5
5	仕様	6
	5.1 本体	6
	5.2 エンジン	6
6	外観図	7
	6.1 外観寸法	7
	6.2 コントロール装置位置及び操作名称	8
7	運転前の点検	9
	7.1 エンジンオイル関係	9
	7.2 起振体オイル関係	9
	7.3 燃料関係	9
8	運転	10
	8.1 始動	10
	8.2 運転	11
9	停止	12
10	輸送と保管	12
	10.1 積み降ろし	12
	10.2 運搬	12
	10.3 保管	12
11	定期点検と調整	13
	11.1 各部点検スケジュール	13
	11.2 エンジンオイルの交換	13
	11.3 エアークリーナーの清掃	13
	11.4 Vベルトの点検・交換	14
	11.5 起振体オイルの点検・交換	14
	11.6 ハンドポンプ作動油の点検・交換	14
12	トラブルシューティング	16
	12.1 エンジン	16
	12.2 本体	17

## 1. はじめに

- この取扱説明書は、バイブロコンパクターの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進める為に、**ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。**
- お読みになった後も**必ずお手元に保管し、分からない事があった時には取り出してお読みください。**
- エンジンの取扱に関しては、別途**エンジン取扱説明書**を参照してください。
- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせください。なお、パーツリストは当社ホームページ <http://www.mikasas.com/>の三笠WEBパーツリストでも公開しております。是非ご利用ください。

この取扱説明書に記載されているイラストが、設計変更等により一部実機と異なる場合があります。

## 2. 機能概要

### 用 途

本機は、質量が150kg以上の前後進するコンパクターです。起振体に内臓された二軸振子の強力な振動で本機の運動方向を往復直線運動に変え、前後進しながら転圧します。水分の多い軟弱土以外の土質に対して、締め固め効果があります。前後進可能な為、溝構内の作業に最適です。また、作業効率が良い為に、広い面積の転圧にも適しています。さらに、タンピングランマーなど強力な転圧機によって凹凸に荒れた地面を平坦に敷き均すなどの転圧にも適しています。使い方によっては、アスファルト舗装前の基礎や、仕上げ作業などの広範囲な重転圧にも適しています。

### 誤用途、誤使用の警告

本機は、水分が多い地面や特に粘土質の現場においては機体が進行しませんので、作業に適しません。土砂、土、砂、砂利の転圧に使用し、それ以外の作業に使用してはいけません。


### 構 造







本機上部はエンジン、ハンドル、ベルトカバー及び外装フレームで構成されています。機体上部は、防振ゴムを介して、本機下部の転圧盤に固定されています。本機下部は、起振体一体型転圧盤で構成されています。起振体内部には二個の振子が内臓されており、それらの位相は油圧で変化する構造になっています。起振体の油圧シリンダーは、油圧ホースで走行レバーに直結した油圧ポンプに繋がっています。

### 動力伝達

原動機は、空冷単気筒のガソリンエンジンです。エンジン出力軸には遠心クラッチが取り付けられています。エンジンの回転数を上げる事により、遠心クラッチが繋がります。遠心クラッチのドラムには、Vプーリーが一体化されており、起振体側のVプーリーにVベルトを介し動力を伝達します。エンジンの回転数は、この間で転圧に適した振子の回転数に変換されます。起振体プーリーは、駆動側の振子軸を回転させます。起振体に内蔵された二個の振子は、平行に位置した二本の振子軸に固定されており、これらはギヤで連結され、お互い逆方向に同じ速度で回転し、振動を発生させます。回される側の振子軸に組み込まれたギヤの内周は、スパイラル状の溝があります。この溝は、ガイドピンが軸方向にスライド可能なキー溝となっており、このガイドピンが二個の振子軸を繋いでいます。二個の振子の位相は、ガイドピンが軸方向にスライドする事によって変化します。位相の変化は、振動の方向を変え、機体の速度・進行方向を変えます。ガイドピンを軸方向に移動させる方法には油圧を用いています。ガイドピンが取り付けられた溝の端には、ピストンが取り付けられ、起振体側油圧シリンダー内の油量と圧力が増すと、ピストンが押され、更にピストンに連結された軸が押されると、軸に取り付けられたガイドピンが移動し、位相を変化させます。作業者は、ハンドルの前後進レバーの操作により、連結されたハンドポンプで油量と圧力を調整し、作業に適した走行速度を得る事ができます。

### 3. 警告サイン

本取扱説明書および機械に貼付けてあるラベルの  マークは警告サインです。安全上、必ず厳守してください。

	人体に対する危険がある場合
 危険	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険が極めて高い場合
 警告	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険があり得る場合
 注意	指示を守らないと、怪我や傷害事故が生じる可能性がある場合
 注意 (  マーク無)	指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

### 4. 安全のための注意事項

#### 4.1 一般的な注意事項

##### 警告

- こんな時は作業をしない。
  - 過労や病気などで体調が悪いとき。
  - 医薬品や薬物を服用したとき。
  - 飲酒をしたとき。



##### 注意

- 取扱説明書をよくお読みいただき正しい取扱いで安全に作業をしてください。
- エンジンの取扱いは別紙エンジン取扱説明書を参照してください。
- 機械の構造を充分理解してください。
- 作業開始前点検を確実に実施してください。
- 作業を安全に行うために防護具(ヘルメット、保護靴等は規格品をご使用願います)を着用し、適切な作業服で作業してください。
- イヤーマフまたは耳栓などの騒音保護具を必ず着用してください。
- 常に機械を点検し正常である事を確認してから運転してください。
- 機体の貼り付け銘板(操作方法、警告銘板等)は安全を守るために非常に重要です。本機を清掃し、常に読みやすくしておいてください。読み取りにくくなった場合は、新しい銘板に張り替えてください。
- 幼児等が触れると危険です。保管方法、保管場所には十分に注意してください。特にエンジン始動用キーは、必ず作業終了後にキーを取り外し所定の場所で保管してください。
- 整備する場合はエンジンを停止し、バッテリーの配線を外してから行ってください。
- 製造元が許可していない改造が原因で起こる事故に関しては、弊社は一切の責任を負いません。



#### 4.2 給油中の注意事項

##### 危険

- 燃料を給油する場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料を補給する時には、周囲に可燃性がない平坦な場所を選び、燃料をこぼさないように注意してください。こぼれた場合は良く拭き取ってください。
- 燃料の補給中は火気を絶対に近づけないでください。(特にタバコの喫煙には注意してください)
- 燃料タンクの口元まで燃料を入れると、こぼれる可能性があります。給油後は、タンクキャップをしっかりと締め込んでください。



### 4.3 使用場所、換気に関する注意事項

#### ⚠ 危険

- 室内やトンネル内などの換気の悪い場所では使用しないでください。エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており大変危険です。
- 火気の近くでは、運転しないでください。



### 4.4 作業前の注意事項

#### ⚠ 注意

- 各部分の締付具合を点検して下さい。振動でネジが緩んでいると思わぬ大きな故障の原因となります。ネジはしっかりと締め付けてください。

### 4.5 作業上の注意事項

#### ⚠ 注意

- 本機を始動したり作業する時は、周囲の人や障害物に対して安全である事を確認してください。
- 常に足場に注意し、機械のバランスを保てる無理の無い安定した姿勢で作業してください。
- エンジン本体、マフラーは高温になりますので、運転時及び運転直後等の熱い時には触れないように注意してください。
- 運転中に本機の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は直ちに本機を停止させ作業を中止してください。
- 本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止させてください。



### 4.6 リフティング時の注意事項

クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行ってください。

#### ⚠ 危険

- 吊り上げ作業に対し、本機部品(特にフック・防振ゴム)の損傷やネジの緩み・脱落が無く安全である事を確認してください。
- 吊り上げ時はエンジンを停止させてください。
- 強度の充分なワイヤーロープ等を使用してください。
- 吊り上げ作業は一点吊りフックのみ使用し、その他の場所(ハンドル等)での吊り上げ作業はしないでください。
- 本機を吊り上げた際、下には絶対に人や動物を入れないでください。
- 安全の為、必要以上の高さには吊り上げないでください。



### 4.7 運搬・保管に関する注意事項

#### ⚠ 警告

- 運搬時はエンジンを停止させてください。
- エンジン及び本機がよく冷えてから運搬してください。
- 運搬時は必ず燃料を抜いてください。  
本機が動いたり、倒れたりしないようしっかりと固定してください。



## 4.8 整備上の注意事項

### 警告

- 安全を確保した上で本機の性能を維持する為には、適切な整備が必要です。本機の状態を充分留意し、良好な状態を維持してください。特にリフティング関連部品の不適切な整備は重大事故の原因となります。
- 本機の温度が下がってから作業を行ってください。特にマフラーは高温になり、やけどをするおそれがあります。またエンジンやエンジンオイル、起振体等も熱くなりますので、やけどをしないよう充分注意してください。

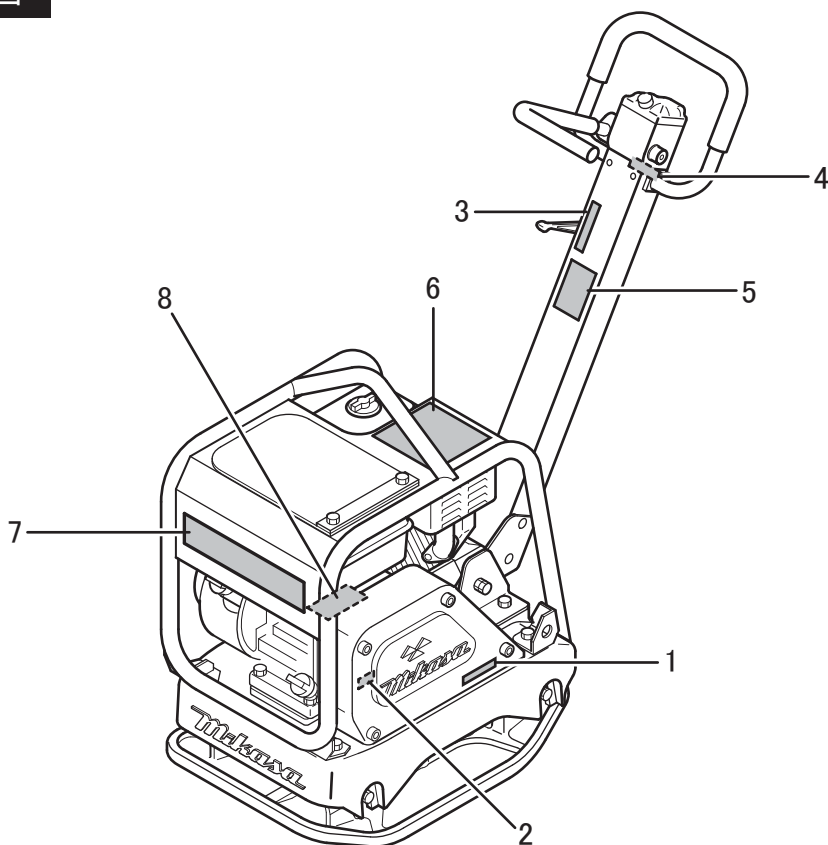


### 注意

- 点検調整は必ずエンジンが停止した状態で行ってください。回転部に巻き込まれたり等の重大な傷害を負う危険性があります。
- 整備終了後は保安部品の取付及び安全性の確認を行ってください。特に、ボルト・ナットの点検は充分行ってください。
- 分解を伴う整備を行う場合は、必ず整備解説書を参照して安全に作業を行ってください。



## 4.9 ラベル位置図



ラベルNo.	部品番号	部品名称	枚数	備考
1	9202-07420	銘板,ベルトサイズ RPF-3320	1	
2	9202-01950	銘板,オイル SAE10W-30	1	
3	9201-09981	銘板,レバー操作	1	
4	9201-08810	銘板,シェルテラス 46	1	MVH-R60H/100H
4	9202-11090	銘板,シェルテラス32/MVH306/英	1	MVH-R60HA
5	9201-08780	銘板,取扱注意 / MVH-100	1	MVH-100H
6	9201-09990	銘板,取扱注意,和文 / MVH-R60	1	MVH-R60H/R60HA
6	9201-08790	銘板,危険 / 警告 / 注意	1	MVH-100H
7	9201-10000	銘板,型式ロゴ / MVH-R60	1	MVH-R60H/R60HA
7	9201-09210	銘板,型式ロゴ / MVH-100	1	MVH-100H
8	9202-21620	銘板,製番/MVH-R60H/国内/CE無	1	MVH-R60H
8	9201-13570	銘板,製番/MVH-R60HA/国内 CE無	1	MVH-R60HA
8	9202-21530	銘板,製番/MVH-100H/国内	1	MVH-100H



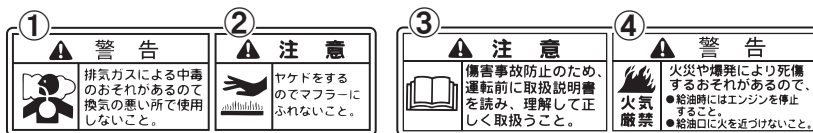
## 4.10 ラベルの絵文字説明



- ① **火気厳禁**  
運転中や保管時、給油時には火気に注意してください。使用後は燃料を抜き取ってください。
- ② **排気ガス吸引注意**  
排気ガスを吸引しますと一酸化炭素中毒になりますので、換気の悪い場所で運転しないでください。
- ③ **吊り下げ機体の接近注意**  
吊り上げた機械の下へは絶対に人や動物が入らないようにしてください。
- ④ **ハンドル部での吊下げ禁止**  
本機をハンドル部で吊り下げないでください。必ず指定された箇所で行ってください。

- ⑤ **耳栓(イヤーマフ)の使用**  
本機の運転中は必ず耳栓(イヤーマフ)を使用してください。
- ⑥ **高温部への接触注意**  
運転中や停止直後に、高温部(エンジンやマフラー等)に触れると火傷の恐れがあります。
- ⑦ **回転部への巻き込み注意**  
運転中に回転部へは近づかないでください。部品を交換する時は、必ずエンジンを停止してください。
- ⑧ **取扱説明書熟読**  
運転前には必ず取扱説明書をよく読んで、操作内容を充分理解してください。また、いつでも確認できるように保管してください。

### エンジン付属注意銘板



- ① **排気ガス注意**  
排気ガスには一酸化炭素が含まれています。吸引すると一酸化炭素中毒等を引き起こす危険性があります。屋内や換気の悪い場所では運転しないでください。
- ② **マフラー高温注意**  
マフラー及びその周辺は高温になります。絶対に触れないでください。
- ③ **取扱説明書熟読**  
安全のためにご使用の前には必ず取扱説明書をお読みください。
- ④ **火気厳禁**  
給油時は必ずエンジンを停止させてください。給油口に火気を近づけると火災の危険があります。

## 5. 仕様

### 5.1 本体

型 式	MVH-R60H/R60HA	MVH-100H
搭載エンジン	ホンダ GX120	ホンダ GX160
主要寸法		
全 長	870mm	900mm
全 幅	350mm	400mm
全高(ハンドル)	850mm	990mm
転圧盤(長さ×幅)	480mm×350mm	585mm×400mm
性 能		
振動数	100Hz (6,000VPM)	100Hz (6,000VPM)
遠心力	15kN (1,530kg)	22.5kN (2,300kg)
速度(前進)	0～25m/min	0～23m/min
速度(後進)	0～25m/min	0～21m/min
起振体オイル量	200cc	350cc
起振体オイル	エンジンオイル10W-30	
装備質量	68kg	116kg
使用Vベルト	RPF3320 (A-32使用可)	RPF3320 (A-32使用可)

### 5.2 エンジン

型 式	ホンダ GX120 ガソリン	ホンダ GX160 ガソリン
最大出力	2.6kW/3.5PS (3,600rpm)	3.6kW/4.9PS (3,600rpm)
使用燃料	自動車用無鉛ガソリン	
燃料タンク容量	2.0L	3.1L
エンジンセット 回転数	3,600 r.p.m.	
エンジンオイル量	0.6L	

※ 機械質量(当社規定) = 燃料(燃料タンク容量の1/2)、エンジンオイル・本機潤滑油(規定量)を含む。

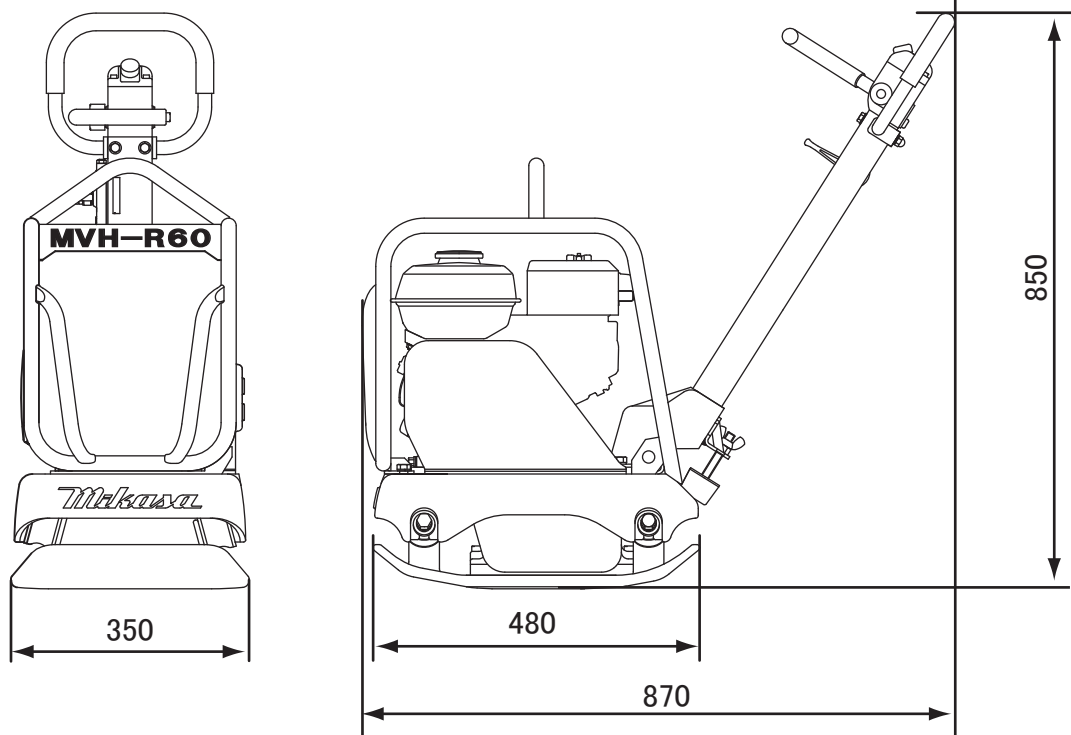
※ 本仕様は予告無く変更することがあります。



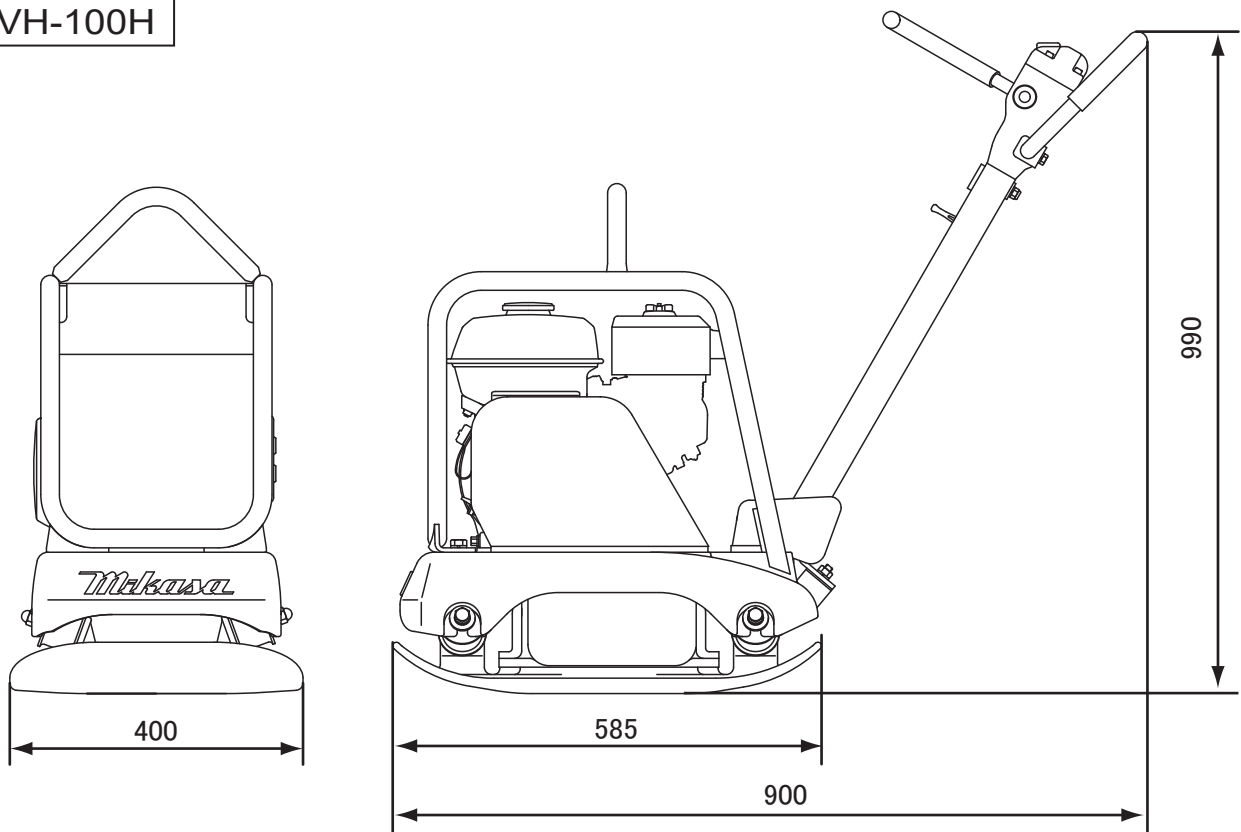
## 6. 外観図

### 6.1 外観寸法

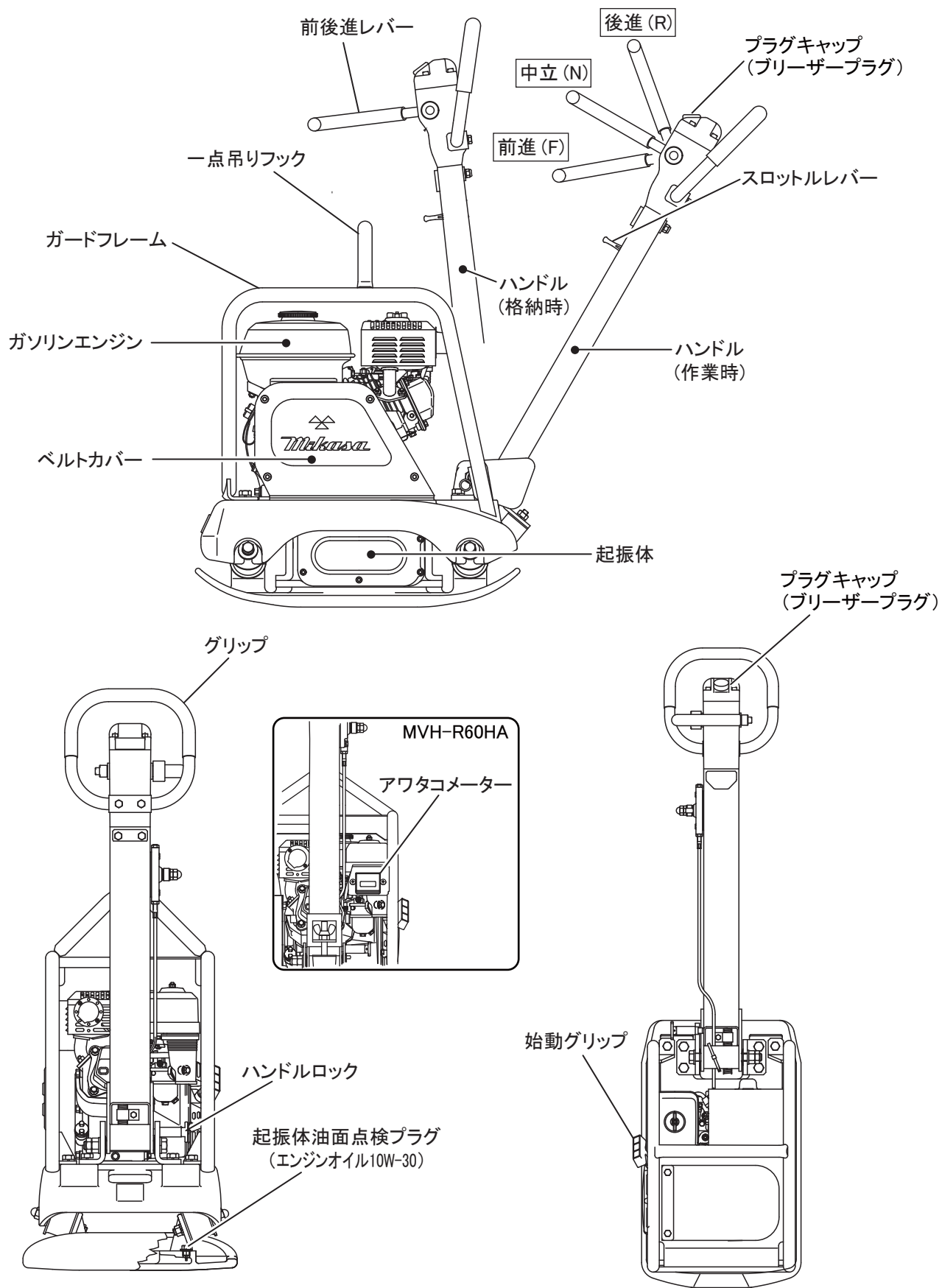
MVH-R60H / R60HA



MVH-100H



## 6.2 コントロール装置位置及び操作名称



## 7. 運転前の点検

### 作業前各部点検表

点検箇所	点検項目
外観	傷、ゆがみ
フロントカバー、センターカバー	破損、傷、ボルト及びナット類のゆるみと脱落
燃料タンク	漏れ、油量、汚れ
燃料系統	漏れ
燃料フィルタ	汚れ
エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ
起振体オイル	漏れ、油量、汚れ
起振体用Vベルト	傷、張り
油圧配管関係	漏れ、ゆるみ、傷、摩耗
スロットルレバー	動作点検、遊び
前後進レバー	動作点検、遊び
ボルト、ナット類	ゆるみ、脱落

エンジン各部の点検詳細は、別冊のエンジン取扱説明書を参照してください。

#### ⚠ 注意

点検する時は必ずエンジンを停止してください。

油量：MVH-R60H/R60HA⇒200cc  
MVH-100H⇒350cc

### 7.1 エンジンオイル関係

- エンジンを水平にして、オイルを点検してください。不足している場合は補充してください。(図1) エンジンオイルは下記のタイプをご使用ください。

品質：ガソリンエンジン用オイル SE級以上  
粘度：SAE30番 20℃以上(夏季)  
SAE 10W-30

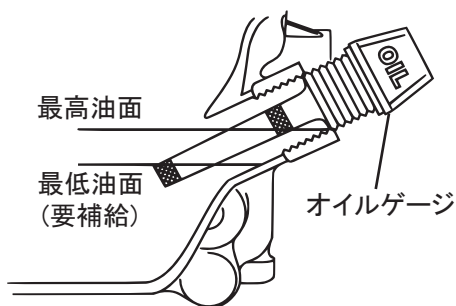


図 1

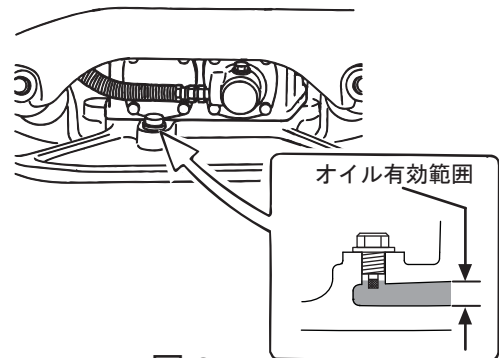


図 2

### 7.3 燃料関係

#### ⚠ 危険

- 燃料を給油する場合は、必ずエンジンを停止してください。
- 燃料の給油時は火気厳禁です。
- 給油口一杯まで燃料を入れないでください。
- 燃料がこぼれた場合は、良く拭きとってください。

### 7.2 起振体オイル関係

- 本機を水平にして起振体のオイルプラグを外し、オイルが規定量入っているか点検してください。不足している場合は、エンジンオイル 10W-30を入れてください。油量はMVH-R60H/R60HAが200cc、MVH-100Hが350ccです。(図2)

- 新しくきれいな燃料を入れてください。
- 給油口はフロントカバー上部のゴムカバーの下にあります。
- 燃料を入れる場合は必ずフィルターを通してろ過してください。

## 8. 運転

### 8.1 始動

1. 燃料コックレバーを「出」にします。(図3)

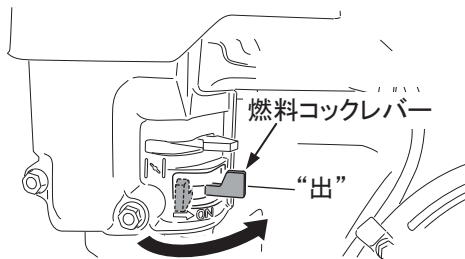


図 3

2. チョークレバーを「始動」側にします。(図4)

#### 注意

エンジンが暖まっている時や気温が高い場合は、チョークレバーの操作は必要はありません。



図 4

3. スロットルレバーをアイドル(低速)位置にします。エンジンが始動し難い場合は、少し高速側へ動かしてください。(図5)

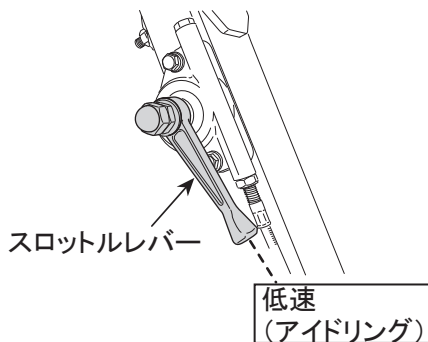


図 5

4. エンジンスイッチをON(運転)の位置にします。(図6)

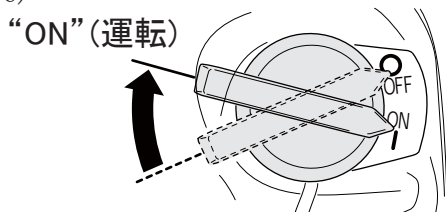


図 6

5. リコイルスターターの始動グリップを握り、最初に軽く負荷がかかる位置まで引きます。そこから勢い良く引張ってください。この時、ロープを引張り過ぎるとロープが切れたり抜けてしまう恐れがありますので御注意ください。またエンジン始動後も始動グリップは引いた状態で離さないで、持ったままでゆっくりと戻してください。(図7)

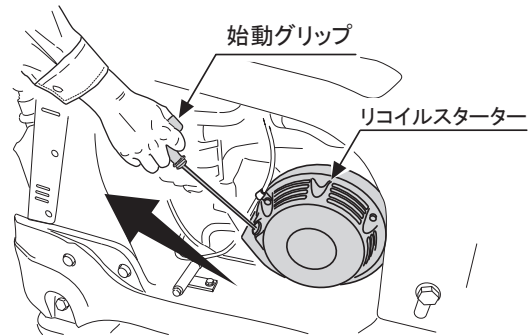


図 7

6. エンジンが動いていない時はアワータコメーターは「運転積算時間」を表示しています。エンジンが始動すると「エンジン回転数」の表示に変わります。(図8)

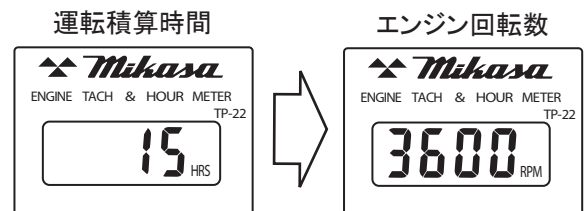


図 8

7. チョークレバーを”始動”にしている場合は、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に”運転”の位置に戻します。(図9)



図 9

8. エンジン始動後に、スロットルレバーを高速側に動かしている場合は、低速(アイドル)位置に戻してください。さらに、必ず2~3分低速で暖機運転を行います。

## 8.2 運転

### 注意

- 運転時には、作業の進行方向や周りに危険物や障害物、建造物等が無いかを十分に確認してください。
- 運転中は、本機の可動部や高温部に触れないように注意してください。

1. スロットルレバーを高速(運転)位置にします。スロットルレバーは勢いよく動かしてください。ゆっくり操作しますとクラッチがスリップを起こして、動作不良や故障の原因となります。(図10)

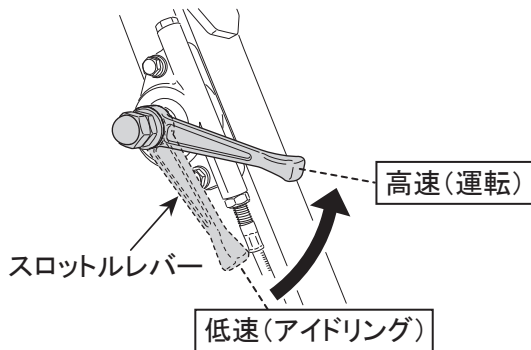


図 10

2. 前後進レバーを操作して、本機を前後進させます。前後進レバーを前に倒すと前進し、後ろへ倒すと後進します。中立の位置では本機はその場で振動します。(図11)

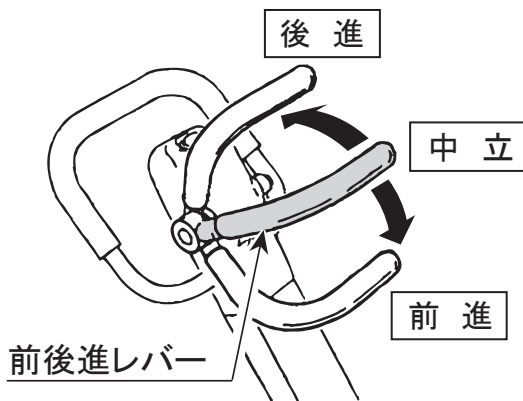


図 11

### 注意

粘土質の土壌で作業する場合は、走行速度が遅くなる場合があります。その場合は、転圧盤の底面に粘土が付着していないか点検してください。なお、粘土質や高含水比の土壌に対しては、転圧力が有効に働くような土壌状態まで乾燥させてから運転を行ってください。

3. 作業を止める時は、スロットルレバーを低速(アイドリング)の位置へ素早く戻します。(図12)

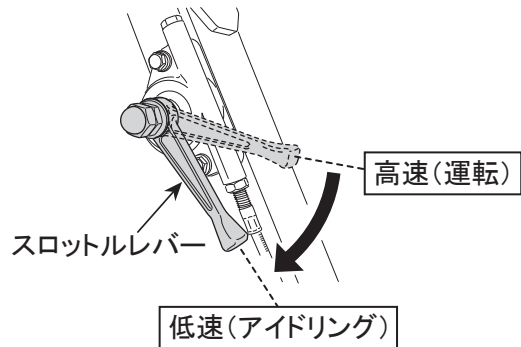


図 12

### 注意

エンジン回転数が下がりきる前にスロットルレバーを急激に高速側に戻さないでください。エンジンが故障する原因になります。

## 9. 停止

1. スロットルレバーが低速(アイドリング)の位置にある事を確認します。
2. エンジンスイッチをOFF(停止)にします。(図13)

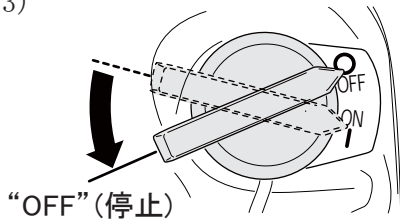


図 13

### 注意

エンジンが完全に停止する前にエンジンスイッチをON(運転)側にしないでください。エンジンが破損や故障の原因になります。

3. 燃料コックレバーを「止」の位置にします。(図14)

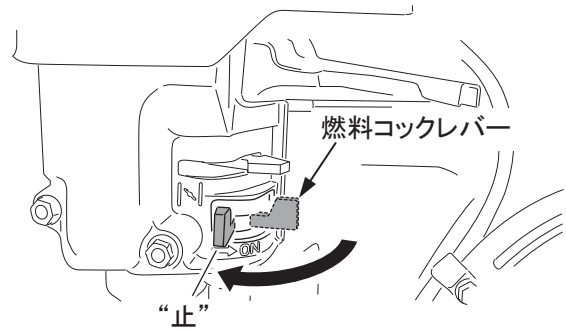


図 14

## 10. 輸送と保管

クレーンによる積み下ろし作業には資格が必要です。クレーンの運転や玉掛け作業の資格を持っている人が行ってください。

### 10.1 積み降ろし

#### 警告

- フロントカバーや各部の破損やゆるみ、脱落が無く安全であることを確認してください。
- 必ずエンジンを停止して作業してください。
- 強度が充分で、キンク(よじれやコブ等)などが無いワイヤーロープをご使用ください。
- 垂直方向にゆっくり吊り上げてください。
- 吊り上げた本機の下に人や動物が絶対入らないようにしてください。
- 安全のために必要な高さ以上には吊り上げないでください。

- 積み降ろしにはクレーン等を使用してください。
- 積み降ろし作業は、必ず監督者(指揮者)の指示にしたがって行ってください。
- 吊り上げる際には、必ず吊り上げ用フックを使用してください。フック以外の場所(ハンドル等)での吊り上げは絶対に行わないでください。(図15)

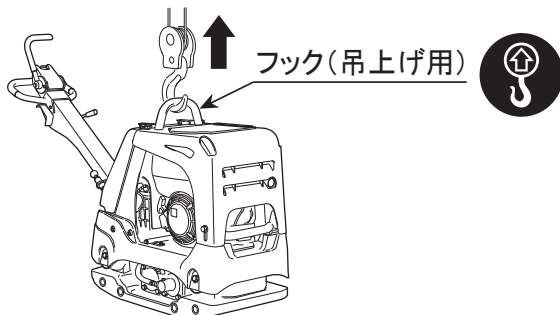


図 15

### 10.2 運搬

#### 警告

- 運搬時は、必ずエンジンを停止してください。
  - 運搬時は必ず燃料を抜き取ってください。
  - 本機が動いたり、倒れないようにしっかり固定してください。
- ハンドルを格納状態(立てた状態)にする場合は、確実にロックされているか確認してください。

### 10.3 保管

- 各部の汚れや泥を水洗いで落としてください。その際には、エンジンのマフラーや電装部品等に水がかかたり入らないように気をつけてください。
- 屋外に放置しないでください。
- カバーをかけて直射日光の当たらない湿気の少ない場所に格納してください。
- 長期間使用しない場合
  - 燃料タンクから燃料を抜き取ってください。
  - キャブレターや燃料コック内の燃料も抜き取ってください。
- 長期間保管した後の使用時には、かならずエンジンオイル量を確認してください。



## 11. 定期点検と調整

### 11.1 各部点検スケジュール

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日	外観	傷、ゆがみ	
	燃料タンク	漏れ、油量、汚れ	ガソリン
	燃料系統	漏れ、油量、汚れ	
	エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	防振ゴム	亀裂、損傷、摩耗	
	ハンドポンプ	漏れ	作動油
	起振体オイル	漏れ	エンジンオイル
	油圧配管系統	漏れ、ゆるみ、傷、摩耗	作動油
	エアークリーナー	エレメント(スポンジ)の汚れ	
	前後進レバー	作動点検、遊び	
	ボルト、ナット類	ゆるみと脱落	
20時間毎	エンジンオイル	初回のみ交換	エンジンオイル
	エンジンオイルフィルター	初回のみ交換 (ディーゼルエンジンのみ)	
100時間毎	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
	エンジンオイルフィルター	洗浄 (ディーゼルエンジンのみ)	
	起振体オイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	作動油	漏れ、油量、汚れ	作動油
200時間毎	起振体用Vベルト	傷、張り	
	クラッチ	汚れ、傷、摩耗	
300時間毎	起振体オイル	交換	
	作動油	交換	エンジンオイル
	燃料フィルター	交換	作動油
2年毎	燃料パイプ系	交換	
不定期	エアークリーナーエレメント	交換	
	油圧ホース	交換	

#### 注意

- エンジン関係の点検及び整備の詳細につきましては、付属のエンジン取扱説明書をご覧ください。
- 上記は標準状態での点検時間です。使用条件により内容が異なってきますのでご注意ください。

#### 注意

- 整備は、必ず水平で固い安定した場所で行ってください。
- 整備の時は必ずエンジンを停止させ、本体とエンジンが冷えてから行ってください。
- フロントカバーの開閉時は、指を挟まれないように注意してください。

### 11.2 エンジンオイルの交換

- エンジンオイルは初回は20時間、以後100時間運転毎に交換してください。

### 11.3 エアークリーナーの清掃

- エアークリーナーのエレメントの汚れが酷くなると、エンジンの始動不良や出力不足など運転に支障をきたすだけでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。必ずエレメントの清掃を行ってください。(詳細は別紙エンジン取扱説明書を参照) 汚れが取れない場合は、エレメントを交換してください。(図16)

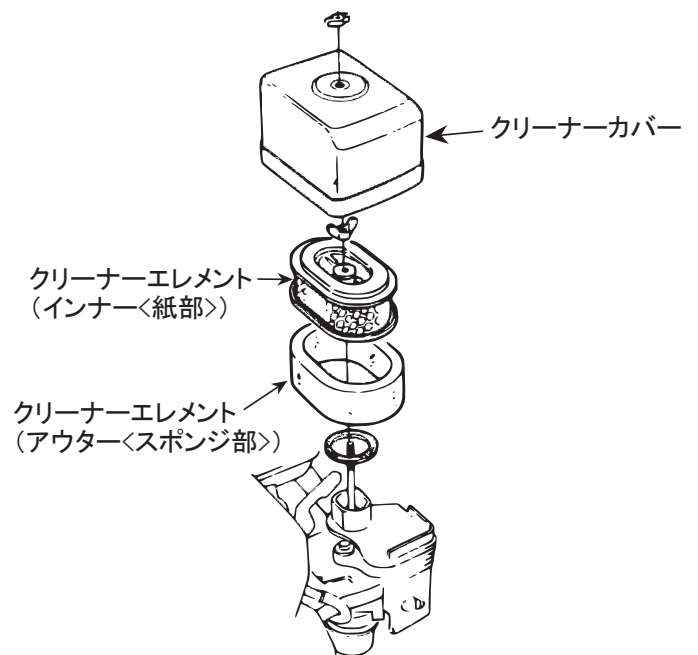


図 16

## 11.4 Vベルトの点検・交換

### ● Vベルトの点検 (図17)

200時間毎にベルトカバー(上)を外してVベルトの張り具合を点検して下さい。張りの強さは両軸の中間を強く指で押して10~15mm位たわむように張れていれば正常です。

Vベルトが緩んでいるとエンジン動力の伝達が悪く、転圧力が小さくなり、またVベルトの寿命も短くなります。

### ● Vベルトの交換方法

#### Vベルトの取り外し

上下のベルトカバーを外した状態で起振体プーリー(下側)の締め付けボルトにメガネレンチ(19mm)を掛け、Vベルト左側中央部に布等を引掛けて強く手前に引っ張りながらメガネレンチを時計方向に回し、Vベルトを外します。

#### Vベルトの取付

下側の起振体プーリーにVベルトを掛け、上側クラッチの左側にVベルトを押し付け、取り外しの時と同様にメガネレンチを時計方向に回して取り付けます。

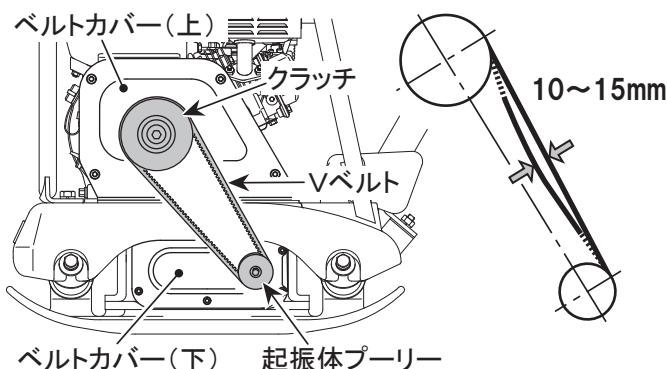


図 17

#### 注意

作業時にプーリーとVベルトに手や指、衣類等が巻き込まれないように注意してください。

## 11.5 起振体オイルの点検・交換

### ● 100時間運転毎に本機を水平にして起振体のオイルゲージを外し、オイルが許容範囲にあるかを点検してください。(図18)

起振体オイルは、300時間運転毎に交換してください。このとき、オイルはオイルゲージから抜きますが、反対側の転圧盤下部に枕木等を入れ本機を斜めに傾けて抜いてください。

#### 注意

点検の際には、点検口からゴミ等が混入しないように点検口を洗浄してから点検してください。起振体より油漏れがあった場合は、随時起振体オイルを点検してください。

油量: MVH-R60H/R60HA⇒200cc  
MVH-100H⇒350cc

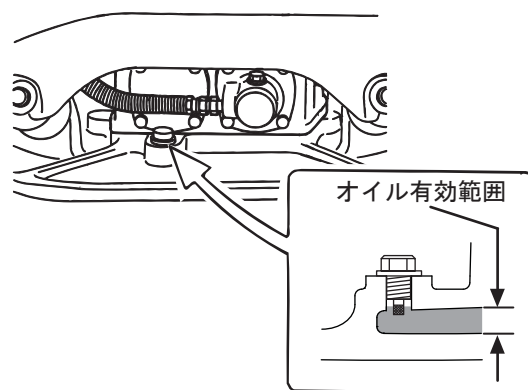


図 18

## 11.6 ハンドポンプ作動油の点検・交換

### ● 作動油の点検

100時間運転毎に作動油を点検して下さい。ハンドルバーを作業角度にして油圧ハンドポンプ上部のブリーザープラグを外し作動油が規定量(OIL LEVEL)まで入っているか点検して下さい。(図19)

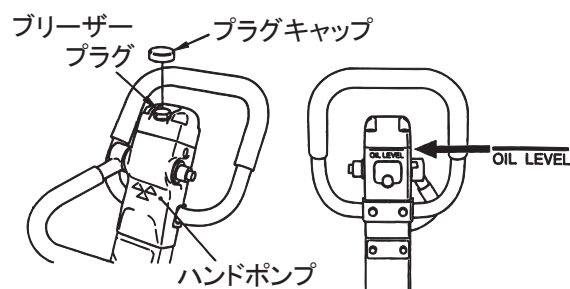


図 19

### ● 作動油の交換(図20)

ハンドポンプ内の作動油は、必ずオイルレベルまでにしてください。

#### 注意

- 作動油を入れ過ぎると、ブリーザープラグから作動油が吹き出しますので注意して下さい。
- ハンドポンプ内にゴミが入らないよう注意して下さい。

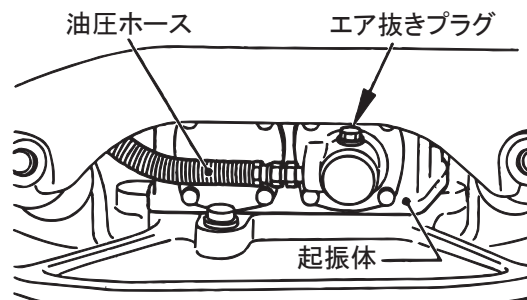


図 20

- a. ハンドポンプのプラグキャップを外し、ブリーザープラグ(24mmレンチ)を外してから、起振体のシリンダーへ入っている油圧ホースの起振体側を外し、走行レバーを前進にして、ポンプ内の作動油を抜きます。
- b. 作動油を抜いた後、油圧ホースを起振体に取り付けます。
- c. ハンドポンプのブリーザープラグ取付穴から作動油を給油します。

使用作動油①: シェルテラスオイル#46または相当品

油 量: MVH-R60H⇒0.25L

MVH-100H⇒0.3L

使用作動油②: シェルテラスオイル#32または相当品

油 量: MVH-R60HA⇒0.25L

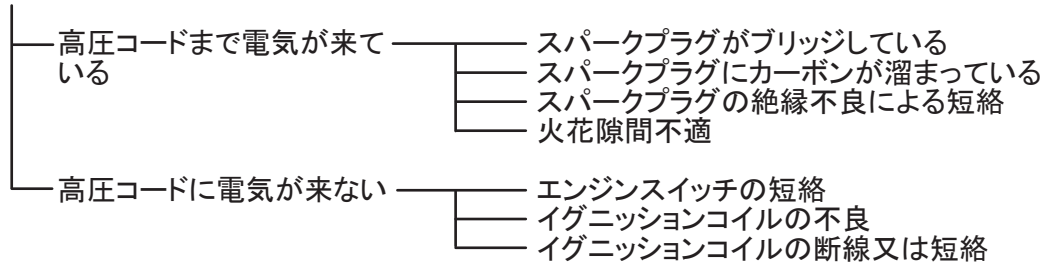
- d. 起振体のシリンダ部エア抜きプラグを外して暫くするとオイルがエア抜きプラグから出てきますので、気泡が出なくなったらプラグを取り付けます。しっかり締め付けてください。
- e. ハンドポンプのブリーザープラグを取り付けて、プラグキャップをはめ込みます。ポンプ内の作動油が、OIL LEVELにある事を確認し、ブリーザープラグを取り付けてください。

## 12. トラブルシューティング

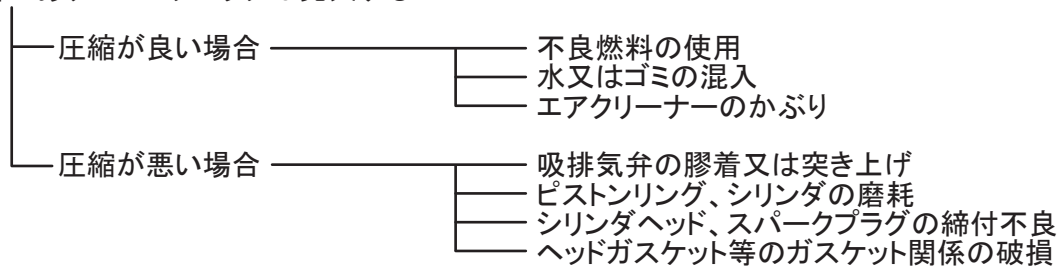
### 12.1 エンジン

#### 始動不良

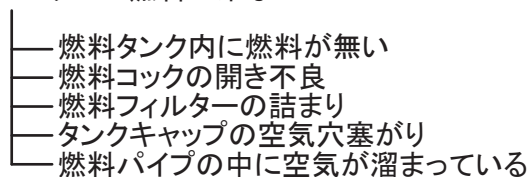
##### ● 燃料がありスパークプラグが発火しない



##### ● 燃料がありスパークプラグは発火する

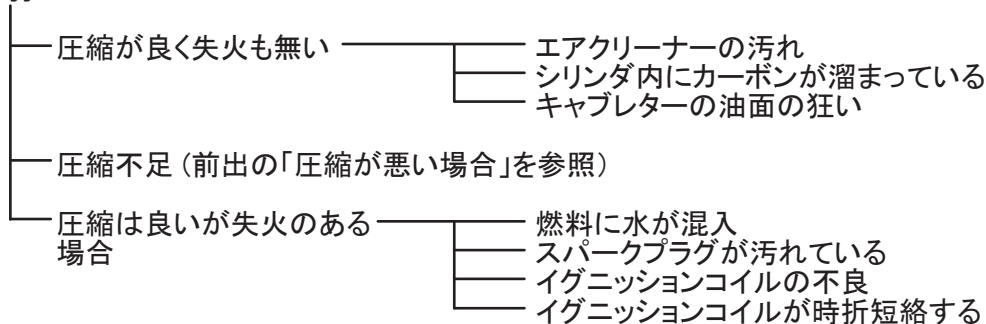


##### ● キャブレターに燃料が来ない

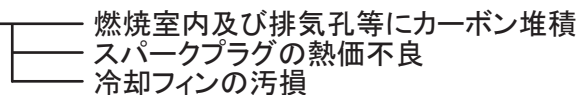


#### 運転不良

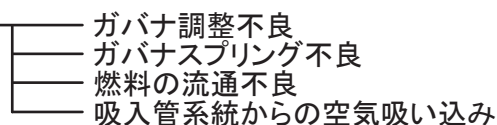
##### ● 力が弱い



##### ● エンジンの過熱



##### ● 回転変動



## 12.2 本 体

- 走行が遅く振動が弱い
  - エンジンの出力不足及び高速セット回転数の不適
  - クラッチのスリップ
  - V-ベルトのスリップ
  - 起振体オイルの過多
  - 起振体内部の故障
- 前後進の切り替え不良
  - ハンドポンプの不具合
  - 前後進レバーの取付不良
  - 油圧ホースの破損
  - 作動油への空気混入
  - ハンドポンプ内チェックバルブのゴミ詰まり
  - シリンダ内のピストンベアリング破損
- 前後進しない
  - V-ベルトの外れ。スリップ、及び破損
  - クラッチのスリップ
  - 起振体のロック
  - シリンダ内のピストンベアリング破損
- 走行レバーが重い
  - ハンドポンプ内のピストンかじり
  - 起振体シリンダのピストンかじり

# Mikasa

**MIKASA SANGYO CO., LTD.**

1-4-3,Kanda-Sarugakucho,Chiyoda-ku,Tokyo,101-0064,Japan

**三笠産業株式会社**

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ

TEL 048-734-2402 FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ

TEL 048-734-2401 FAX 048-736-6787

その他のお問合せ

info@mikasas.com

Web パーツリスト

<https://www.mikasas.com/MIKASA/index.html>



PRINTED IN VIETNAM